

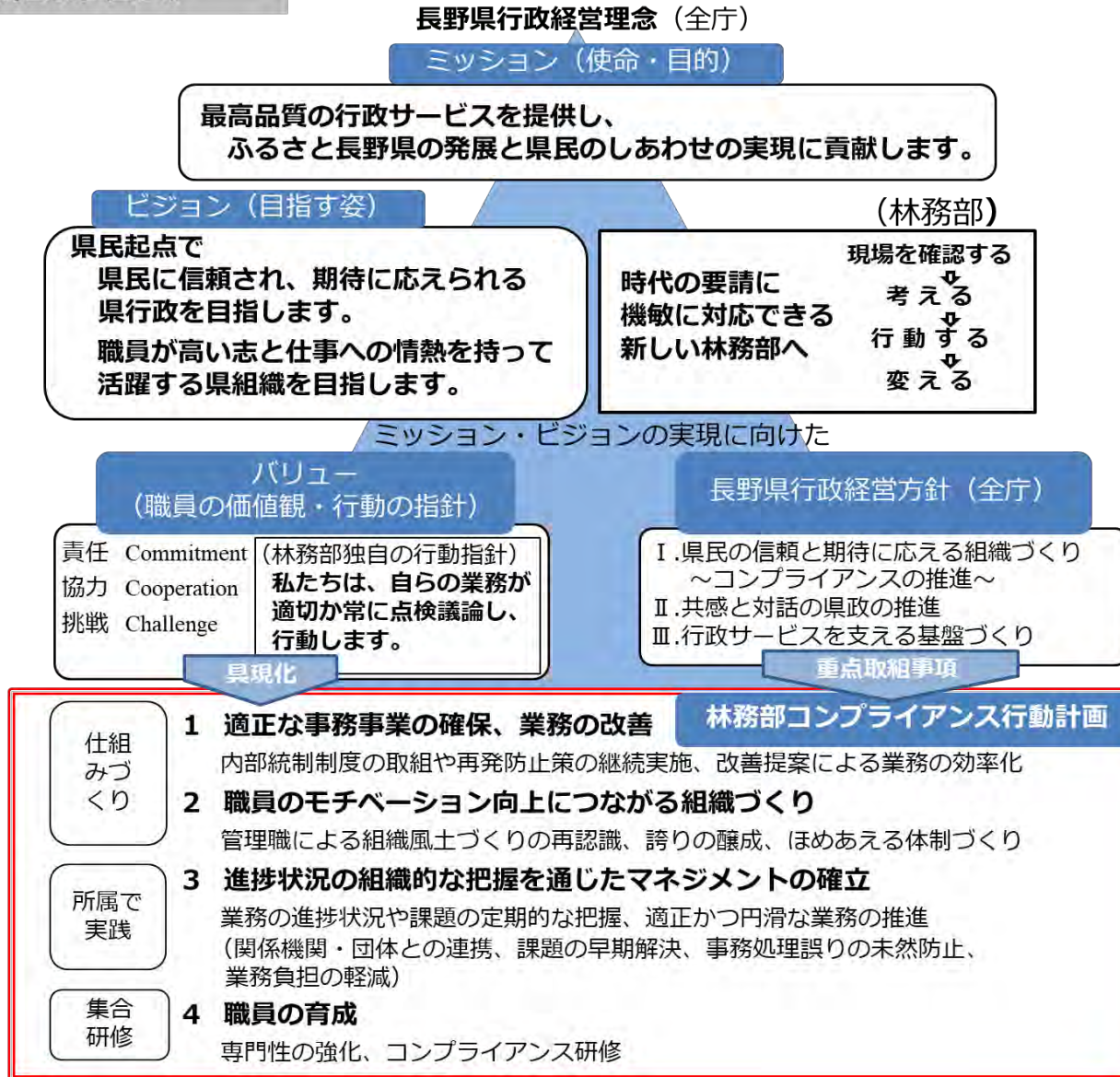
令和 3 年 2 月 4 日
第 11 回 林務部改革推進委員会

**林務部コンプライアンス行動計画
に基づく取組について
(第 3 四半期終了時点)**

長野県林務部

林務部コンプライアンス行動計画の概要

行動計画の位置づけ



- ・4本の柱に整理
- ・具体的な取組項目
- 27項目→12項目へ重点化

行動計画の4本の柱と具体的な取組内容

取組内容と評価の項目

具体的な取組内容		項目
1 適正な事務事業の確保、業務の改善		① 内部統制の取組や、これまでの再発防止策（二人体制の現地検査（造林事業）、チェックリストの活用等）等を生かし、適正な事務事業の確保を引き続き図る
		② 職員自らの工夫実践により効果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る
2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり		③ 職員のモチベーションの確保を図る組織風土づくりについて管理職の再認識を図る
		④ 職員の業務に関する誇りを醸成するための取組を進める
		⑤ 職員同士でよい取組をほめあえる体制づくりを進める
3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立		⑥ 業績評価面談、「進捗管理（課題確認）表」の活用、事業や事務の実施状況報告等により、業務の進捗管理や課題の把握を定期的実施
		⑦ 進捗状況や課題について組織内で共有し、コミュニケーションの活性化を図り、課題解決に取り組む
4 職員の育成	専門性の強化	⑧ 人員配置については、職員のキャリアプランも確認しながら、専門性の確保、内部牽制体制の確保など、総合的な観点で実施
		⑨ 専門研修については、実施内容に応じ新任、事務担当者に加え、中堅・ベテラン職員が参加しやすいようにさらに見直しを進める
		⑩ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける
	コンプライアンス研修	⑪ 新たに林務部及び林務部関係現地機関に配属された職員に対する事案に係る研修は、グループ討議など職員が自分事として認識できるよう引き続き実施
		⑫ 係長・中堅職員を対象としたグループ討議を各所属で実施

主な取組

改善提案を水平展開することで業務の効率化を推進

所属長が先頭となり、組織で目標を共有するなど、職員のモチベーション向上を図る取組を実施

各所属で課題を深掘りしたうえで、目標を設定し、マネジメントを実施

オープンミーティングや所属長も交えた研修等により職員の育成を実施


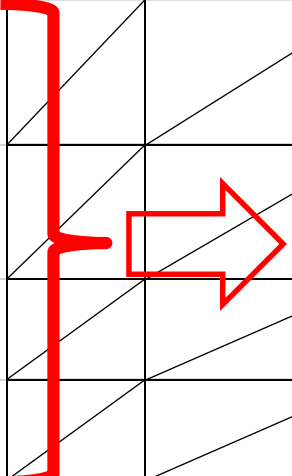
各項目の点検について (抜 粹)

1 適正な事務事業の確保、業務の改善

		取組内容と評価項目		
具体的な取組内容	項目	評価項目		
1 適正な事務事業の確保、業務の改善	① 内部統制の取組や、これまでの再発防止策（二人体制の現地検査（造林事業）、チェックリストの活用等）等を生かし、適正な事務事業の確保を引き続き図る	・チェックリストの作成見直し数（区分ごと（制度改正、照会対応、その他）） ・Q & A通知数		
	② 職員自らの工夫実践により効果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る	①改善提案数 ②制度改正、取組の展開推奨の数		
2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり	③ 職員のモチベーションの確保を図る組織風土づくりについて管理職の再認識を図る	・地域課題への対応率（地域の課題数及びその解決取組数）（3のうち一部再掲）		
	④ 職員の業務に関する誇りを醸成するための取組を進める	①活用・取組件数 ②活用・取組内容		
	⑤ 職員同士でよい取組をほめあえる体制づくりを進める	①表彰に関する取組の収集件数 ②業務改善で各所属において効果のあった取組例 ③表彰事例の活用状況		
3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立	⑥ 業績評価面談、「進捗管理（課題確認）表（様式3）」の活用、事業や事務の実施状況報告等により、業務の進捗管理や課題の把握を定期的実施	【課レベル】 ①進捗状況の把握項目数 ②課題解決取組数 以下に区分し把握 ・課題（業務と地域に分類）の共有による早期解決 ・事務処理誤りの未然防止 ・業務負担の軽減 ・モチベーションの向上		
	⑦ 進捗状況や課題について組織内で共有し、コミュニケーションの活性化を図り、課題解決に取り組む	【係レベルを含む】 ③課題解決等の取組		
4 職員の育成	⑧ 人員配置については、職員のキャリアプランも確認しながら、専門性の確保、内部牽制体制の確保など、総合的な観点で実施	-		
		⑨ 専門研修については、実施内容に応じ新任、事務担当者に加え、中堅・ベテラン職員が参加しやすいようにさらに見直しを進める	・研修実施状況 ・参加者の意見の状況	
		⑩ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける	・オープンミーティング実施状況	
	⑪ 新たに林務部及び林務部関係現地機関に配属された職員に対する事案に係る研修は、グループ討議など職員が自分事として認識できるよう引き続き実施	・実施状況		
⑫ 係長・中堅職員を対象としたグループ討議を各所属で実施		・各所属における係長・中堅職員への対応状況		

1 適正な事務事業の確保、業務の改善

1② 改善提案数 ⇒ 6件（うち今年度評価は2件）

番号	分野	現状	改善内容	効果・成果	所属・職・氏名	登録日	本庁担当係	コメント	制度改正・対応等	確認日
1	鳥獣・ジビエ	捕獲許可申請に関する必要書類や申請内容が複雑で、申請者との事前協議に時間を要する	申請協議の中で解り辛いと思われる事項を中心に、注釈を入れた申請例をマニュアルとして作成	申請に係る必要書類が明確化され、事前の打合せがスムーズになる	諏訪地域振興局 林務課 平澤専門員	R2.9.2	鳥獣対策・ジビエ振興室	マニュアル整備により、申請者の事務作業の軽減、定型化による審査事務の負担軽減、職員間での知見共有につながる。	取組の展開を推奨（共有）	R3.1.21
2	総務	・担当者及び係長のダブルチェックしている中でも、補助金の交付決定時の支出負担行為の逸失により事務処理が遅延する恐れがある。	・補助金交付決定決裁時に「要支出負担行為」と朱書きされた「しおり」を担当係の係長が書類に挟み込み、支出負担行為決裁時に係長が取り除くこととした。 	・書類に目立つしおりが挟まれており、確実に支出負担行為がなされるようになった。 ・担当以外も支出負担行為の処理状況を共有できた。	木曾地域振興局 林務課 稲村企画幹	R2.11.1	総務	確実にしよりの挟み込みを行うことが必要となるが、担当者以外も含め組織的に事務処理遅延の未然防止に取り組むことができる。	取組の展開を推奨（共有）	R3.1.20
3	総務	職員相談ヒアリングで現地を巡回。 人事ヒアリングで現地を巡回。	WE B会議方式で実施	コロナ禍における感染リスクの低減、出張旅費や移動時間の削減	森林政策課 坂爪企画幹 原補佐 関森担当係長	R3.1.12				
4	その他	森林経営管理に関する会議を集合・対面形式で実施。	WE B会議方式で実施	コロナ禍における感染リスクの低減、出張旅費や移動時間の削減、ビデオ配信によるフォローの実施	森林政策課 森林経営管理支援センター 井出補佐	R3.1.12				
5	総務	所属アドレスに受信するメールの件数が多く、対応漏れの可能性が高い	メールの振り分け機能を活用する	メールの振り分けによりメールの重要度が明確となり、確認漏れが減少する	諏訪地域振興局 林務課 小原課長	R3.1.22				
6	総務	サーバ内の文書やデータの保存先が不明確で、検索に時間を要している	フッター機能を活用し、保存先を表示する	データ等の保存先が明確となり、検索に要する時間が大幅に削減される	諏訪地域振興局 林務課 林務係 青木補佐	R3.1.22				

今後評価

2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり

		取組内容と評価項目	
具体的な取組内容		項目	評価項目
1 適正な事務事業の確保、業務の改善		① 内部統制の取組や、これまでの再発防止策（二人体制の現地検査（造林事業）、チェックリストの活用等）等を生かし、適正な事務事業の確保を引き続き図る	・チェックリストの作成見直し数（区分ごと（制度改正、照会対応、その他）） ・Q & A 通知数
		② 職員自らの工夫実践により効果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る	①改善提案数 ②制度改正、取組の展開推奨の数
2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり		③ 職員のモチベーションの確保を図る組織風土づくりについて管理職の再認識を図る	・地域課題への対応率（地域の課題数及びその解決取組数）（3のうち一部再掲）
		④ 職員の業務に関する誇りを醸成するための取組を進める	①活用・取組件数 ②活用・取組内容
		⑤ 職員同士でよい取組をほめあえる体制づくりを進める	①表彰に関する取組の収集件数 ②業務改善で各所属において効果のあった取組例 ③表彰事例の活用状況
3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立		⑥ 業績評価面談、「進捗管理（課題確認）表（様式3）」の活用、事業や事務の実施状況報告等により、業務の進捗管理や課題の把握を定期的実施	【課レベル】 ①進捗状況の把握項目数 ②課題解決取組数 以下に区分し把握 ・課題（業務と地域に分類）の共有による早期解決 ・事務処理誤りの未然防止 ・業務負担の軽減 ・モチベーションの向上
		⑦ 進捗状況や課題について組織内で共有し、コミュニケーションの活性化を図り、課題解決に取り組む	【係レベルを含む】 ③課題解決等の取組
4 職員の育成	専門性の強化	⑧ 人員配置については、職員のキャリアプランも確認しながら、専門性の確保、内部牽制体制の確保など、総合的な観点で実施	-
		⑨ 専門研修については、実施内容に応じ新任、事務担当者に加え、中堅・ベテラン職員が参加しやすいようにさらに見直しを進める	・研修実施状況 ・参加者の意見の状況
		⑩ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける	・オープンミーティング実施状況
	コンプライアンス研修	⑪ 新たに林務部及び林務部関係現地機関に配属された職員に対する事案に係る研修は、グループ討議など職員が自分事として認識できるよう引き続き実施	・実施状況
		⑫ 係長・中堅職員を対象としたグループ討議を各所属で実施	・各所属における係長・中堅職員への対応状況

2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり

2④ 業務に関する誇りを醸成するための取組件数 ⇒ 5件

所属	取組件数	取組内容
佐久	1件	『所属の取組方針を定め共有する』 (組織としての目標や方針を全員で共有すべきというグループ討議の結論から、所属の取組方針を「カラマツ林業の再構築」に定め共有)
南信州	1件	『地域住民と話をする』 (地域の方と放置竹林等の課題について語り合うことにより、地域課題に前向きに取り組む意識を醸成)
森林政策課	2件	『森ハン ～森にかようためのハンドブック～ による森林・林業の知識共有』 (職員の得意分野の森林・林業技術についてハンドブックにまとめ、市町村林務担当者等に配布) 『森林・林業関係のブログの情報拡散』 (「長野県魅力発信ブログ」の森林・林業関係記事について、現地・本庁掲載問わず、林務部公式ツイッターで取り上げる等、情報拡散・共有)
信州の木活用課	1件	『現地適応化実証試験の実施』 (地域の課題に対応した「現地適応化実証試験」を実施し、現地機関の技術的な普及・指導業務を支援)
合計	5件	

3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立

取組内容と評価項目			
具体的な取組内容	項目	評価項目	
1 適正な事務事業の確保、業務の改善	① 内部統制の取組や、これまでの再発防止策（二人体制の現地検査（造林事業）、チェックリストの活用等）等を生かし、適正な事務事業の確保を引き続き図る	・チェックリストの作成見直し数（区分ごと（制度改正、照会対応、その他）） ・Q & A 通知数	
	② 職員自らの工夫実践により効果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る	①改善提案数 ②制度改正、取組の展開推奨の数	
2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり	③ 職員のモチベーションの確保を図る組織風土づくりについて管理職の再認識を図る	・地域課題への対応率（地域の課題数及びその解決取組数）（3のうち一部再掲）	
	④ 職員の業務に関する誇りを醸成するための取組を進める	①活用・取組件数 ②活用・取組内容	
	⑤ 職員同士でよい取組をほめあえる体制づくりを進める	①表彰に関する取組の収集件数 ②業務改善で各所属において効果のあった取組例 ③表彰事例の活用状況	
3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立	⑥ 業績評価面談、「進捗管理（課題確認）表（様式3）」の活用、事業や事務の実施状況報告等により、業務の進捗管理や課題の把握を定期的を実施	【課レベル】 ①進捗状況の把握項目数 ②課題解決取組数 以下に区分し把握 ・課題（業務と地域に分類）の共有による早期解決 ・事務処理誤りの未然防止 ・業務負担の軽減 ・モチベーションの向上 【係レベルを含む】 ③課題解決等の取組	
	⑦ 進捗状況や課題について組織内で共有し、コミュニケーションの活性化を図り、課題解決に取り組む		
4 職員の育成	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	⑧ 人員配置については、職員のキャリアプランも確認しながら、専門性の確保、内部牽制体制の確保など、総合的な観点で実施	-
		⑨ 専門研修については、実施内容に応じ新任、事務担当者に加え、中堅・ベテラン職員が参加しやすいようにさらに見直しを進める	・研修実施状況 ・参加者の意見の状況
		⑩ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける	・オープンミーティング実施状況
	⑪ 新たに林務部及び林務部関係現地機関に配属された職員に対する事案に係る研修は、グループ討議など職員が自分事として認識できるよう引き続き実施	・実施状況	
	⑫ 係長・中堅職員を対象としたグループ討議を各所属で実施	・各所属における係長・中堅職員への対応状況	

3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立

3⑥・⑦ 進捗管理表の活用による進捗状況や課題の共有

地域課題の 取組区分	件数 (件)	主な取組項目（抜粋）
①地域課題の共有による早期解決	5	・新型コロナウイルスへの対応（本庁・現地） ・市町村連携による森林経営管理制度の推進（現地） など
②業務課題の共有による早期解決	14	・林務関連情報の積極的な発信（現地） ・工事関係事業の管理（現地） など
③地域・業務課題の共有による早期解決	17	・災害からの復旧（現地） ・林業普及指導事業の執行 など
④事務処理誤りの未然防止	4	・補助事業等の提出書類の適正化（本庁・現地） ・学校運営に係る予算の適切な執行（現地） など
⑤業務負担の軽減	1	・係間の共助（現地）
⑥モチベーションの向上	3	・適切な組織運営と人員配置（本庁） ・情報の発信（現地） など
⑦その他	5	・交通安全（現地） ・労働安全（現地） など
計	49	

3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立

3⑥・⑦ 進捗管理表の活用による進捗状況や課題の共有

所属	課題の取組区分	課題	課題の掘り下げ	実績
木曾	事務処理誤りの未然防止	申請者の書類に不備が多い。同じようなミスが繰り返されることも多い。	申請者が業務多忙で個々の補助事業の要綱・要領等を十分に読み込めず、理解が進まない。	4月の補助事業内示前に実施にあたっての留意事項を発出し、注意喚起を実施。 特に必要な事業については、内示時に注意事項を添付し施行。
南信州	モチベーションの向上	森林・林業行政に対する県民の認知度の低さと、これに関連する森林環境への関心の少なさ。	森林整備や治山林道事業など、いずれも県民の目の届かない山中で行われることが多く、その意義・効果が認知されにくい側面がある。	里山整備利用地域などの紹介記事をブログに投稿。メンマの調理法や調理の過程、竹林再生の活動の様子などをSNSにて発信。

4 職員の育成

取組内容と評価項目			
具体的な取組内容	項目	評価項目	
1 適正な事務事業の確保、業務の改善	① 内部統制の取組や、これまでの再発防止策（二人体制の現地検査（造林事業）、チェックリストの活用等）等を生かし、適正な事務事業の確保を引き続き図る	・チェックリストの作成見直し数（区分ごと（制度改正、照会対応、その他）） ・Q & A 通知数	
	② 職員自らの工夫実践により効果を上げた取組を「改善提案」として展開し、業務の効率化を図る	①改善提案数 ②制度改正、取組の展開推奨の数	
2 職員のモチベーションの向上につながる組織づくり	③ 職員のモチベーションの確保を図る組織風土づくりについて管理職の再認識を図る	・地域課題への対応率（地域の課題数及びその解決取組数）（3のうち一部再掲）	
	④ 職員の業務に関する誇りを醸成するための取組を進める	①活用・取組件数 ②活用・取組内容	
	⑤ 職員同士でよい取組をほめあえる体制づくりを進める	①表彰に関する取組の収集件数 ②業務改善で各所属において効果のあった取組例 ③表彰事例の活用状況	
3 進捗状況の組織的な把握を通じたマネジメントの確立	⑥ 業績評価面談、「進捗管理（課題確認）表（様式3）」の活用、事業や事務の実施状況報告等により、業務の進捗管理や課題の把握を定期的実施	【課レベル】 ①進捗状況の把握項目数 ②課題解決取組数 以下に区分し把握 ・課題（業務と地域に分類）の共有による早期解決 ・事務処理誤りの未然防止 ・業務負担の軽減 ・モチベーションの向上	
	⑦ 進捗状況や課題について組織内で共有し、コミュニケーションの活性化を図り、課題解決に取り組む	【係レベルを含む】 ③課題解決等の取組	
4 職員の育成	専門性の強化	⑧ 人員配置については、職員のキャリアプランも確認しながら、専門性の確保、内部牽制体制の確保など、総合的な観点で実施	-
		⑨ 専門研修については、実施内容に応じ新任、事務担当者に加え、中堅・ベテラン職員が参加しやすいようにさらに見直しを進める	・研修実施状況 ・参加者の意見の状況
		⑩ 業務や所属にとらわれない自由な知識・技術研鑽の場「林務部オープンミーティング」を設ける	・オープンミーティング実施状況
	コンプライアンス研修	⑪ 新たに林務部及び林務部関係現地機関に配属された職員に対する事案に係る研修は、グループ討議など職員が自分事として認識できるよう引き続き実施	・実施状況
		⑫ 係長・中堅職員を対象としたグループ討議を各所属で実施	・各所属における係長・中堅職員への対応状況

4 職員の育成

4⑩ オープンミーティング実施状況

所属	実施内容	実施日	実施状況
木曽地域振興局 林務課	ドローン操作研修会	R2.6.10	林務課、木曽広域連合職員を対象にドローンの操作研修を実施(14名)
松本地域振興局 林務課	GNSS、ドローンの操作研修	R2.11.6	林務課内で係を越えた研修を実施。GNSSについては省力化が期待できる一方で、更なる精度検証が必要であることが分かった。(12名)
林務部改革PT	ツイッターオープンミーティング	R2.8.31	改革PTメンバーに限らず林務部職員を対象にツイッターの操作方法等について実習(Web方式 18名)
GISに関するオープンミーティング(GOM)	第2回専門部会	R2.6.16	最新技術に高い関心のある職員を対象に開催(16名)
	第7回GOM	R2.7.17	GISを活用した治山事業トラブル回避事例、GISの作業時間短縮事例、森林経営管理制度におけるGISの活用、など(13名)
	第8回GOM	R2.9.29	森林経営管理制度の取組について、データサイエンスについて、保安林台帳電子化について、GOM専門部会からの報告(17名)
	第9回GOM	R2.12.4	公図重ね合わせ図の作成について、GOM専門部会からの報告、上田地域振興局の取組の紹介(14名)
	第10回GOM	R3.1.22	GIS活用事例の共有 (14名 うち、Web参加7名)

4 職員の育成

4⑫ コンプライアンス研修(係長・中堅職員を対象としたグループ討議等)

所属	実施状況
佐久	若手・中堅職員のグループ討議を行い、林務課の大きな目標や方針を共有すること、他系の現地業務を体験することにより知識や技術を身に付けることを決定
諏訪	採用3年未満の職員等を対象にコンプライアンス推進の勉強会を開催
上伊那	係長級以上のメンバーにより、進捗管理(課題確認)表の検討。コロナ対策、スケジュール共有等を議論。
南信州	係長以上の職員、改革PTメンバーにより進捗管理(課題確認)表の取組項目設定に係るグループ討議
木曾	係長級以上のメンバーにより、コンプラ行動計画の共有と、取組項目、課題とその解決に向けた対応を設定。
松本	①各係長により、課の進捗管理項目、課題とその解決に向けた対応を設定 ②20～30歳代の若手・中堅職員を対象に、社会の未来を考え抜くこと、自分ごと化すること、他人の幸せと自分の幸せを考えることの重要性について説明 ③各係長により、ストレスチェック集団分析結果を受けた業務改善等について議論
北アルプス	係長級以上の職員、改革PTメンバーにより、進捗管理(課題確認)表の取組項目を設定

4 職員の育成

4⑫ コンプライアンス研修(係長・中堅職員を対象としたグループ討議等)

所属	実施状況
北信	森林経営管理制度に係る職員、改革PTメンバーにより、森林経営管理制度の市町村実施方針策定に向けた取組の方向性を検討
森林政策課	①係長級以上の職員により、進捗管理表に関する課内討議を実施 ②コンプライアンス推進月間において、不適切事案やハラスメントに関する討議を実施
信州の木活用課	係筆頭以上の職員、改革PTメンバーにより、進捗管理を行う取組項目の設定
森林づくり推進課	係筆頭以上の職員により、行動計画の取組内容と課において進捗管理を行う課題を設定
鳥獣対策・ ジビエ振興室	係長以上、新規異動者により、今年度懸案事項への理解を深め、今後の対応方針についての意見交換を実施
林業総合 センター	①所長、部長、課長補佐及び筆頭職員により、進捗管理(課題確認)表の検討 ②所長、管理部長、指導部長、課長補佐及び各部職員により、コンプライアンス推進月間の取組として、ハラスメントの状況について職員間で確認

行動計画の課題

- 各項目について、何をしたいのか不明確。最終的なゴールや何が特徴か具体的に書くべき。（改革推進委員）
- 行動計画で目指すべきものの実現と、運用の負担をどのようにバランスを保っていくか。（事務局）
- 計画をつくることに時間・労力をかけすぎでは。どのようにコンプライアンスを実践していくかが一番の課題では。（改革PTメンバー）
- 進捗管理も重要だが、組織が目指す課題について議論・共有し、自分ごと化することが重要では。（改革PTメンバー）

来年度の林務部コンプライアンスの推進について

① 行動計画について

- 基本ラインは、現在の行動計画の方向性で進める。
- 具体的な取組内容ごと「目指す姿」を明記し、年度当初の推進本部等で方向性を確認するなど、行動計画や運用の改善を検討。
- 作成資料等は、過度な負担にならないように見直し。

② 推進体制について

- コンプライアンス・行政経営課が進める「内部統制推進体制の充実」との整合も図り、時代に即した林務部のコンプライアンス推進の位置づけを明確にする。